

菲島部隊軍人軍属戦没認定資料

南西方面艦隊残務整理班

第三部 各論 (下) 各地区別

各地区ニ於テ狀況判明シ戦没認定比較の容易ナルモノハ省略シ戦没認定困難ナルモノニ就テノミ現在迄判明セル狀況ヲ綜合シ略述ス
前者ハ南西方面艦隊残務整理資料第二冊第三冊及第二部各論(上)ニ依リ容易ニ判断シ得ル

(一) 狀況比較的判明シ認定責任者アル地区乃至部隊

ラオアグ方面部隊	少佐(予) 佐藤 徳 (二三輪船長)	第一三三輪船長 佐藤 徳指揮ノ下ニ三三特根 コミシ 運輸部 九二空 十掃特北那空 五面船防部隊 可名 毛谷隊長夫 帰還ヨリ當隊ハ後ニ四司防衛部隊ニ編入
南西方面艦隊司令部 防衛部隊	主計 島 博 (艦隊副官) 美慰是 長島 寛治 (艦隊庶務主任)	職員名簿アリ 残務整理確美ナリ
地区 隊名	残務狀況ニ通ジル者	上 記

事

バン 諸島部隊	中尉(佐) 三枝松 義賢 (九〇二五) 中尉(主) 小林 義定 (二五五輪艇)	同「カ」見張隊長ヲ除ク各隊長帰還 各隊、状況利明シテリ
ツゲガニオ 部隊	大尉 筒井 四郎 (非常空派遣隊長)	總員各隊、リ残骸ハ完全ニ整理シ得
アバリ 防衛部隊 サラエルオンド 部隊 (美濃部 部隊)	大佐 美濃部 貞功 (美濃部 部隊長)	美濃部 部隊、残骸整理恐ト完全 状況亦利明シテリ
バタリナオ 部隊	主中尉 松原 嚴 少尉(主) 蓬萊 士郎 (連隊基地隊長)	状況利明 残骸亦確實
バヨシホ 部隊 (早川 部隊)	主中尉(主) 河村 悦男 (一〇三エ)	状況利明、總員各隊ニテリ所持品、未報告者若干アリ 認定比較的容易ナリ 施設部、航空機、各序、処理状況比較的不良
イラガシ 支隊 (河崎 支隊)	主大佐 白石 孝 繁 主少佐 石井 俊彦 (一〇三飛)	一〇三 經理部長、白石大佐、直率部隊、状況利明セルモ 河崎支隊長、宇井ル部隊不明、本部(一)イラガシ支隊 一項参照

1913

「カシテラリヤ」見張所	「ホリリオ」見張所	「ヂンガラ」見張所	「エシカン」見張所	「ルセナ」部隊 「ルセナ」見張所	「バタシガス」部隊 少尉(兵) 三持根 派遣隊長 少尉(佐) 木林 直彦 (連絡基地隊長)	「ラモシ」派遣隊 少尉(舞) 府 瑕 保 (「ラモシ」派遣隊長)
				少佐 巨 執 方 及 水 正 (三魚艇隊)		
状況判明 三持根残務整理員ニ処理	三持根残務整理員ニ状況承知	「ホヨホン」部隊ニ合流セリ	「ホヨホン」部隊ニ合流 戦没者ハ三持根残務整理員了知セリ	「マ」東方部隊ニ合同セリ	各隊長帰還 状況判明セリ	状況判明 残務整理亦確実ナリ

1914

「ミシロ島」ガシホセ」部隊	中尉(三) 林 茂 仁 輔 (一〇三 常)	九五五空六 処理 状況判明
「ルバ」島 部隊		北菲空へ帰還者名簿ヲ南西方面艦隊残務整理 班提出 状況判明ナリ
「セブ」部隊	主少佐 岡田 貞 貞 (三三三 根)	「セブ」部隊 状況良好判明シ残務整理良好ナリ 岡田主少佐帰還セリ更ニ確実トナル
「バコロド」部隊	主大尉 山 本 政 弘 (三三六 教)	各隊責任者帰還シ四各終了 認定ヲ西オスルキハ山本主大尉帰還後空科ヲ待ルコトス
「カクイ」ガシ」部隊	大尉(三) 尾 崎 修 平 (三〇五 輸 艦 長) 大尉(三) 甲 田 貞 二	尾崎修平帰還セリ整理中
「ツマゲ」部隊	大尉 市 川 博	近ク整理ノ予定
「スリガオ」部隊		状況判明セリ所在各部隊ニ於テ整理
「スル」島 見張所		一九〇一八一名ヲ残シ總員戦死 三三三 特 根 処 理

1915

<p>「タバオ」部隊</p>	<p>大佐 前田孝成 <small>(南亞空司令)</small> 中佐 佐治慎二 <small>(三三特根)</small></p>	<p>各部隊共責任者生存状況良好判明 残務整理良好ナリ</p>
<p>「サラング」部隊</p>	<p>主大尉 向坊長四郎 <small>(三三一設)</small></p>	<p>状況判明残務整理終了</p>
<p>「ヒナツア」 見張所 「マナイ」 「サシオーガスチン」 「バルート」 「カリア」</p>		<p>三三特根ニ於テ処理</p>
<p>「タバオ」湾東岸 魚雷艇基地</p>		<p>三三特根及ニ五魚雷艇隊ニ於テ処理</p>
<p>「カンホア」部隊 <small>(金ジバミ見張所)</small></p>	<p>主少佐 浅野賢澄 (三三特根) 主大尉 鈴木慎二 (三三特根) 〃 助川文郎 (三三特根) 主大尉 内ヶ崎尚郎 (南亞空) 大尉 浜武弘之 (三三特根)</p>	<p>戦斗激烈 転進後ニ状況困難ヲ極メ行方不明者 多数アルモ名目法整備セシメアリ 復員終了ニ認定シ得ルニ資科ヲ各責任者有ス</p>

5.

1916

「テルモンテ」部隊	大佐 前田孝成 (南弗空)	残務整理終了セリ
「ホロ」部隊	兵曹長(兵) 鈴木賢次郎 (三三教言)	三三教言提供ノ資料ニヨリ整理ノコト
「ホンガオ」部隊		南弗空及三三教言提供ノ資料ニ依リ処理ノコト
「ホシカオ」見張所 「バリシビン」 「バラバツク」部隊		三三教言提供ノ資料ニヨリ整理ノコト
「カカヤシ」部隊		「タボ」部隊及「テルモンテ」部隊ニ合流セリ

1917

隊部ルードヒレコ				部隊名	状況	戦没認定日	残務整理担当者
カラバオ島	カハリオ島	軍艦島	コヒドール島	二〇二五 松枝中島 石川各震洋隊ハ船団攻撃実施 上震洋隊兵の長安田兼春ノ指揮ニ持攻 降ハ多大ノ戦果ヲ得テ 二六 米軍落下傘部隊降下同時ニ南枝橋ヨリ上陸 南始激戦 二七 引続テ激戦 二九 三三 設営隊長 吉田中佐指揮ニ設営隊斬込 吉田中佐戦死 二五 櫻潭庫所在兵力總攻撃 兵力殆ク玉碎	二〇二五 状況 稍々明瞭 戦没認定日 三特服ニ編入セラ レタルモノハ 三一特服 残務整理員	二〇二五 二〇二七 三三一 設営 二〇二九 残務整理員	大尉(獨) 中村篤太郎
		二六 米軍掃海艇ト交戦 二五 夕刻火船ト自爆セルモノ如シ (中村篤太郎中告)		二〇三三 二五			
		三三七 米軍約六〇名上陸以後徹底的ニ攻撃シ度ク 四三 神武天皇祭ヲ期シ總員斬込決行 奇藤中尉以下殆ク玉碎 四九 砲台内ニテリタル若干名モ玉碎 (坐存者 藤井末男及 與語ノ二名ノミ)		二〇四三			
		残務整理終了					

1918

支 ン カ ラ イ

<p>榊澤隊</p>	<p>祝野隊</p>	<p>河崎大佐隊</p>	<p>白石部隊</p>
<p>本隊解散後直ニ消息不明 未比畢ト交戦戦死セルモノト認ム</p>	<p>終戦直前迄一〇三需部員石井主計少佐ト行 動シ其ニリアリニガ分離以後消息不明 祝野隊ノ生存者一名モ無キトコロヨリ判断シ 未比畢ト交戦戦死セルモノト認ム</p>	<p>八月二十日頃匪賊ト交戦戦死 (ルソシ島山安州 カシラタルトニ西北方山中)</p>	<p>状況判明ニ問題無し 八月下旬河崎部隊ヲ解散シテト干次ノ各隊ニ分ル (1)河崎大佐隊(土特工主力但し高松軍医大尉ヲ除ク) (2)祝野主少佐隊(一〇三経四三軍郵) (3)榊澤彦八郎少佐隊(五補兵部) (4)吉村法啓大尉、高松軍医大尉隊</p>
	<p>二〇、八、三〇</p>	<p>二〇、八、二〇</p>	
	<p>残部方整理班</p>	<p>南西方面艦隊</p>	<p>主佐 白石 孝 繁</p>

1919

隊	高松 吉村 隊	サシタリス 部隊	オロカホ 部隊	「コロ」見張所	「バカ」見張所
部隊解散、位置留置、タモ糧食無ク、匪賊多シ、未比軍ト交戦戦死セルモノト認め	二〇、八、三五	一月下旬南下「マ」又ハ「カ」味方有力部隊ニ合同ヲ策シタルモ二月上旬未軍ト衝突東方山中入レル、今迄生存者アリト捕ラス、全滅セルモノト認め	二〇、一、二九 米軍「ス」湾ニ未攻以後消息ナシ、終戦後生存者無シ、全滅セルモノト認め	一五二号輸送艦ヲ含む部隊「ル」終戦後米軍ノ情報ニ依リ、米軍ハ討伐ヲ行ヘリト、全滅セルモノト認め、但シ二〇、三、三〇迄ハ消息アリタリ	兵力四五名、二名ヲ残シ全滅
二〇、八、二〇		二〇、三、三〇	二〇、一、二九	二〇、六、三〇	未定 (生存者ニ付決定)
		三十持根			

1920

<p>「アエルトプリンセ」 部隊</p>	<p>「セミララ」島部隊</p>
<p>二〇、二三八未軍未攻 三一、一岩嶋、九〇電大尉 約二〇名ヲ率テ爆彈ヲ抱ヘ戦士三二名ヲ リテ行フト共ニ斬込ヲ決行 未軍十一名ヲ 击碎スル等戦ヲ行ヒ 終戦後艦隊伊藤 （壯）參謀島内ヲ隈ナク調査セリモ海軍部隊 生存者ナシ 又島ヲ離レ他ニ送サレシハモ一比留捕促妻 滅セラレタリト</p>	<p>一九一〇、二五、日十兩相ロイヤル六八後帰還ノ途上 被爆「セミララ」島ニ全礁 残向田約三〇名ヲ残 レ他ハ「マミラ」ニ引揚ケテ残留部隊ハ一九一三、一六、米 軍未攻時 艦ヲ破壊シ「二一七」頃田中八尉 指揮ノ下ニ全員内火艇及「カッター」ニ乗艇 「シト」島東岸沿ヒ北ヒ「マミラ」ニ向テ途中數回 ニ回り比人「コッラ」隊ト交戦 兵力逐次消耗ス 田中八尉ハ「シト」島東岸ヲホシテ不近附近ニ 於テ残員ヲ率テ敵中ニ突入セリ 衛生兵七〇名生還</p>
<p>二〇、三一</p>	<p>一九一三、二五</p>
<p>九五五、空 南方面艦隊 残務整理班</p>	<p>南方面艦隊 残務整理班</p>

1921

<p>「ブーラン」部隊</p>	<p>「カスビー」部隊</p>
<p>二〇四三米軍「ブーラン」は上陸スルヤ、交戦後南東山中陣地ニ位置シ戦斗續行ス。一部「カスビー」部隊ニ合流セリト。考ヘラレルモ、状況不明。</p>	<p>二〇四一米軍「カスビー」は上陸、激戦トナル。四八夜ヨリ第三線陣地(カマクシ)ニ撤退。四一〇米軍本格的ナ攻撃ヲ開始ス。四二九三五警司令佐藤中佐残存兵力ニ「バロウ」陣地ニ転進ヲ命ジ自ラ自決ス。「バロウ」ニ佳米結レ得タル兵力ハ約三〇〇。エニ員約四〇〇。終戦後收容セラレタル人員約二五〇―三〇〇ナルヲ以テ、主カハ四二九迄ニ殆ド戦死セルモノト認め。</p>
<p>二〇四二九</p>	<p>二〇四二九</p>
<p>全右</p>	<p>各所轄残存及南西方面艦隊残存ヲ整理班</p>

1922

カクシジノス見張所	ラッラ島	カフル島	ヒリ島部隊	バタ見張所	レイテ部隊	クラ防衛部隊	マ防衛部隊	マ東方部隊
状況未々判明セカルトニコタキモ 「カクス」部隊合流戦セリト認メラル		未ダ詳細な状況判明セズ	別記	未ダ詳細な状況判明セズ				
二〇四二九		情報ヲ整理 綜合シ進テ 決定	別記	情報ヲ整理 綜合シ進テ 決定				
三五 敬言		南方面艦隊 残存ヲ整理班	/	三特根 北非空 南方面艦隊 残存ヲ整理班				

12

1923

(三) 「クラーク」防衛部隊

(イ) 状況

「クラーク」防衛部隊ハ第一六航空戦隊司令官 杉本 丑衛少將指揮下總兵力
約一五〇〇。(増勢部隊ヲ合シニ〇〇〇トモ稱セラル) 十三ヨリ十七ニ亙ル各戦区司令部
雷部隊及後方勤務隊ニ分配備ニ着ケリ。各戦区ハ概ネニケ聯隊ヨリ成リ
之ニ設営隊カ附属シ各聯隊ハ防空隊及航空隊整備係員ニヨツテ
編制セラレタリ

二十一年一月下旬米軍正面ニ現レ戦斗始マリテヨリ四月下旬司令部分散迄猛
烈ナ空襲ト砲撃ヲ為シ雷部隊後方勤務隊ヲ除キソノ兵力ノ大半(八〇三%)
ヲ緒戦及決戦ニ於テ失ヒ残存兵力ヲ殆ト全部(十四十六戦区部隊及後方
勤務隊ハ一部温存)ヲ離脱戦特ニ四月下旬(自四月二十至四月二十八日)
米軍ノ大掃蕩戦ニ於テ消耗セリ
之ガ経緯ハ次ニ掲ガル第一表及第二表ノ如シ

(第一表)

兵力消耗率表

戦区名	生 存 者	時期			
		一月(會敵前)	三月下旬	四月中旬	終戦時
隊司令部	八〇〇	三〇〇		單 独 收 容 者 数 不 詳	
防衛部	(一〇〇)	(三七五)		(〇)	
13	三〇〇	一五〇		ナシ	
	(一〇〇)	(五)		(〇)	
14	三〇〇	三五〇		六〇	
	(一〇〇)	(二一六)		(三)	
15	三〇〇	一五〇		ナシ	
	(一〇〇)	(五)		(〇)	
16	六〇〇	一三〇〇		三五〇	
	(一〇〇)	(三六)		(五八)	

14

1925

備考	合計	後方勤務隊	雷部隊	17
一總兵力約二〇〇〇トシテ計算セリ 二各戦区兵力ハ均分ナラザルモ十六戦区六〇〇〇他八三〇〇宛トシテ計算セリ	二〇〇〇〇 (一〇〇)	南西空徹 一、二〇〇 (一〇〇)	二〇〇 (一〇〇)	三〇〇〇 (一〇〇)
	三、九五〇 (一九七)	全上(但シ二月下旬) 一、二〇〇 (一〇〇)	一五〇 (七五)	五〇〇 (二六七)
		全上 三、二〇〇 (三五八)		
	約四五〇 (二二三)	全上 約四〇〇 (三三三)	ナシ (〇)	単独收容者数不詳

1926

(第二表) 「シラ-ラ」防衛部隊兵力推移一覽表

摘要	戦区	司令部	13	14	15	16	17	雷部隊	後方勤務隊	合計	記事
原所轄 (部隊)		26航戰 1航機監 2航艦 臨時ラ- 乙=在12ル 東2動旅 行着	141空 北菲空 305設 防空隊	261空 北菲空 315設 防空隊	221空 北菲空 232設 防空隊	263空 153空 1021空 北菲空 308設 防空隊	241空 北菲空 230設 防空隊	北菲空 シラ-ラ 1地区本 部員	南西方廠 軍需部 施設部 308設 一部		航空隊-合=ル飛行 隊名ハ本冊序部 各論(上)参照
1月兵力		800				6,000 (2月15日 -1月15日 +1,000+711)		800	空廠 1,200	20,000	主隊(各戰犯)概 ネ2,500乃至3,000 711
緒戦 (前進陣地戦)			1月20日頃 711砲隊 7設?	全左	陸軍 担当	自1月24日 至2月14日					
決戦 (複陣地戦)		自3月8日 至3月中旬	自1月20日頃 至3月5日	自2月上旬 至3月5日	全左	自2月上旬 至3月21日	自3月中旬 至3月21日				

1927

三月 中下旬 残存兵力	陣地	0	50	150	0	1300	500	0		
	西方集結地 (傷病者)	300	100	200	150	0	0	150	2月向 1,200	
	計	300	150	350	150	1,300	500	150	1,200	3,950
西方集結時期	3月中旬	3月下旬	3月上旬	3月下旬	4月上旬	4月上旬	3月中旬	3月中旬 以前		
4月以後 行軍 (未軍大掃蕩戰 前後状況)	4月25日 北へ 5,000名 方面進 出以後 消息不明	4月中旬 北へ方面 進出 以後 消息不明	4月中旬 北へ方面 進出 米軍攻 奪南 下 16戦区 指揮官 指揮下 入ル	4月中旬 北へ方面 進出 以後消 息ナシ	4月下旬 交戦後 南方へ離 脱隠存 終戦ナ ル	4月中旬 北行 4月22日 北へ街 通突破 以後消 息ナシ	4月下旬 北行 トセル 攻奪後 全滅 推定 以後消 息ナシ	航空 4月中旬 310名ト ナル トセル 山西方へ 16戦区 指揮官 指揮下 入ル		
終戦時 生存者数	单独収 容者 0	0	約 60	0	約 350	单独収 容者 0	約 40	約 450	(1) 左ハ16戦区指揮官 1托控出共ナリ (2) 单独収容者 ナル者数見込	

1928

13	防衛部隊 司令部 (本丸)	戦区	(四)
一四一空 二〇一空 (飛行隊) 北非空 (一部) 設営隊 (二隊) 長船部隊 小枝原 隊 残存者 黒川 井上 堀 松本 赤野 坂下 松林 木村 相山 各防空隊	三六航戰司令部 一航艦司令部 二航艦司令部 転勤旅行者 水木防空隊	所轄名	経過
ビナツホ山西北麓「カ」 部落附近ニ於テ米軍ノ包圍戰 滅攻毒ヲ受テ交戦戦死	未軍歩兵ト交戦戦死	状況推定	認定日 (七六三空出田宗孝大尉ノ提出資料ニ依ル)
同 右	自二〇、四、二四 至二〇、四、二八	戦区認定年月日	
北非空各戦区 以テ認定 当コトハ極力戦区 別ヲ調査スルノ旨 アリ	水木中隊ノ兵力ハ 隊長以下約一〇〇 他八十六戦区ニ在リ	記事	

1929

15	14
<p>二二一空 (戦三三飛行隊 ソ、他ヲ含む) 北飛空一隊 三三三教習隊 田中、綿織、天田、 板木、佐々木、各防 空隊</p>	<p>七六一空 二〇一空 (司令中村少佐以下半教 習三三三、三二五、三二六各 飛行隊ノ整備員ヲ 含む) 北飛空二八八カッパ北 三三三分遣隊 設習隊(二隊) 末松、松山、小野田、 田中、高島、宮地、 進藤、宮内、白田、 各防空隊</p>
13 戦区ニ同じ	13 戦区ニ同じ
13 戦区ニ同じ	13 戦区ニ同じ

19

1930

16

<p>一五三空 (含救隊中 飛行隊二隊)</p>	<p>隊行飛二〇七雲攻</p>		<p>七六三五 攻雲四五飛行隊</p>
<p>十六戰區部隊才二聯隊主力ヲ 構成</p>	<p>飛行隊整 備員全部</p> <p>小隊長、整隊長、飯塚教養及整隊長、 儘田親徳、指揮官ニテ小隊ハ四ノ隊、 山西北林鹿、マロツ山、川上流ニ於テ敵ヲ 包圍殲滅的攻雲ヲ受テ交戦、 全員戦死セリ。</p>	<p>兵器整備 員全部</p> <p>小隊長少尉青木正美及少尉星貞雄、 指揮官ニテ箇小隊ハ榎節陣地撤收、 西方へ転進輸送作業中、P18機 機ノ編隊爆雲ヲ受テ、ババノ川上流 ノ谷附近ニ於テ全員陣地ト共ニ 埋没戦死セリ。</p>	
<p>二〇四二八</p>	<p>二〇四二八</p>	<p>二〇三三一 二四〇〇頃</p>	
<p>石川敬亨少尉 残隊整理担任</p>			<p>生存者戦攻者行方不明 者、各名簿等、其類 全部提出あり</p>

1931

17			
三四一空 北非空(三隊) 設空隊(二隊) 防空隊(村山隊)	防空幹部隊 齊藤 遠藤 高橋 水本 (部) 小柏 原 山本 谷長 出田 長谷 島崎 福島 村上 安藤 長沼 高橋 石山 桂田 松谷 第木 足五 前田 各防空隊	北非空(一部)	一〇二一空(鳩) 三〇二設空隊 (村松 技中尉 三照) (会 三 七 判明 七 廿 七)
概本(三)山北方面ニ至 ル途中ニ於テ米軍ノ包圍攻撃ヲ受 テ戦死セルモノト推定	包圍攻撃の攻撃ニ受テ交戦戦死 包圍攻撃の攻撃ニ受テ交戦戦死	十六戦区為ニ聯隊ニ属ス 生存者 士官ニ(特)准士官 三 下士官 六 兵 三 合計 三二名 包圍 戦隊の攻撃ヲ受テ交戦戦死 生存者 士官 一 下士官 六 計 七	二〇四二八
自二〇四二四 至二〇四三八	二〇四二八	二〇四二八	二〇四二八 姓名 天大尉 三照 会 三 判明 七 廿 七

21

1932

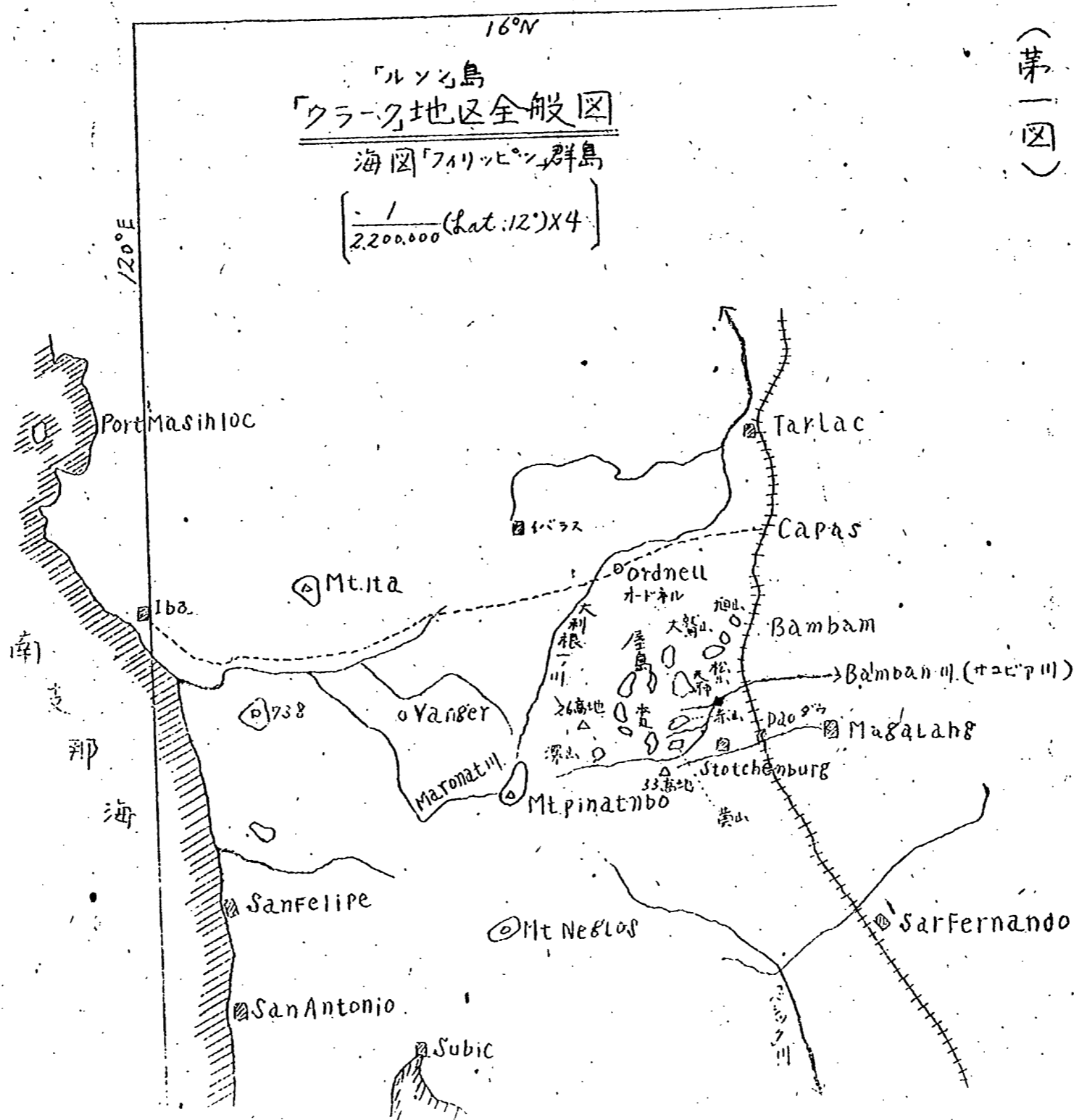
備考	後方 勤務隊	雷部隊
<p>(一) 本表ニ掲ケル外防空隊ハ多数アルニ所屬戰区不明 自二〇四三四 至二〇四三九ノ間ニ米軍ト交戦戦死セルモノト認め</p> <p>(二) 本表ニ在リタル設置隊ノ所屬戰区ハ進テ決定ス</p> <p>(三) 三十三魚雷調整班ノ所屬戰区亦不明ナルモ (一)ニ同シ</p> <p>(四) 三七敬号備隊ハ编制ノ暇無ク為 配員無シ</p>	<p>南西空司令部 (昭和三年一月) 月二二 分工場ニ在リテ着 テ村上勲少尉ニ 依リテ不明ナルモ</p> <p>一〇三軍需部 一〇三施設部</p>	<p>北菲空ララシト地区 本部員 (昭和三年一月) 月二二 分工場ニ在リテ着 テ村上勲少尉ニ 依リテ不明ナルモ</p>
	<p>「ロ」本山西北戦区ニ於テ敵ト交戦 戦死セルモノト推定(但敵艦ヲ除ク) 終戦時生存者士官一以下兵以下 約二〇名</p>	<p>司令部ノ補給隊ヲ從事 「ロ」本山西北戦区ニ於テ敵ト交戦 戦死セルモノト推定(但敵艦ヲ除ク) 終戦時生存者士官一以下兵以下 約二〇名</p>
	同	自二〇四三四 至二〇四三八
	石	<p>一多任 敵艦ヲ除ク 本司令部</p>

1933

「ルソン島」
「クラーク地区全般図」

海図「フィリピン群島」

$\left[\frac{1}{2,200,000} (\text{Lat. } 12^\circ) \times 4 \right]$

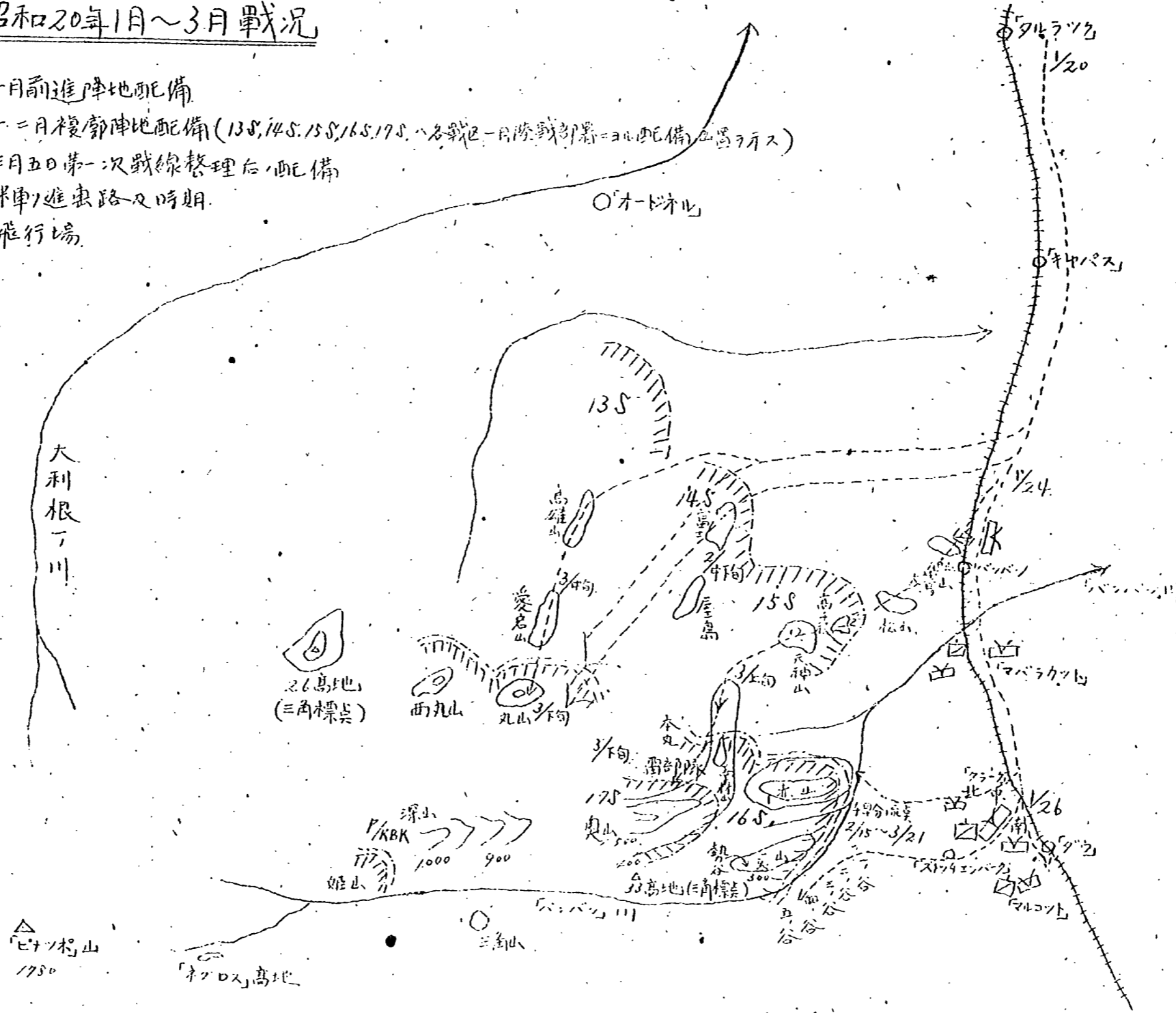


(第一図)

1934

昭和20年1月~3月戦況

- 一月前進陣地配備
- 〰 一月複廓陣地配備 (13S, 14S, 15S, 16S, 17S, 各戦区一月際戦部署=20日配備) (高ラリス)
- 〰 三月五日第一次戦線整理後配備
- ← 米軍進軍路及時期
- ✕ 飛行場



(第二図)

1935

昭和20年4月状況及各部隊最後状況

4月下旬(4/24~4/28)米軍、包圍殲滅攻撃ヲ受テ
終ニ米軍大規模攻撃ヲ終了、大部ヲ散収ス

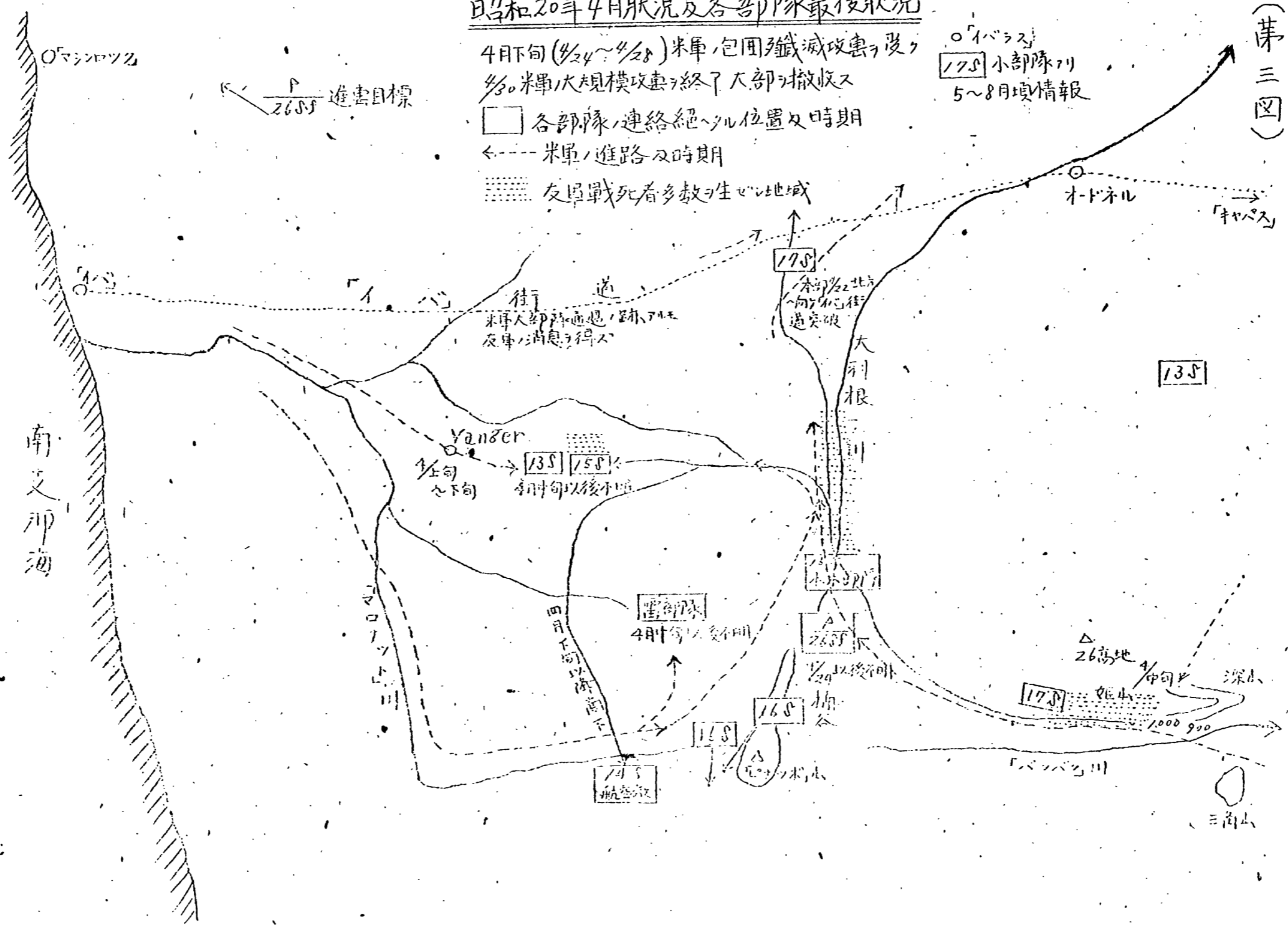
□ 各部隊、連絡絶へル位置及時期

← 米軍、進路及時期

⋯ 友軍戦死者多数ヲ生セル地域

○「イバラス」
175 小部隊ヲ
5~8月頃情報

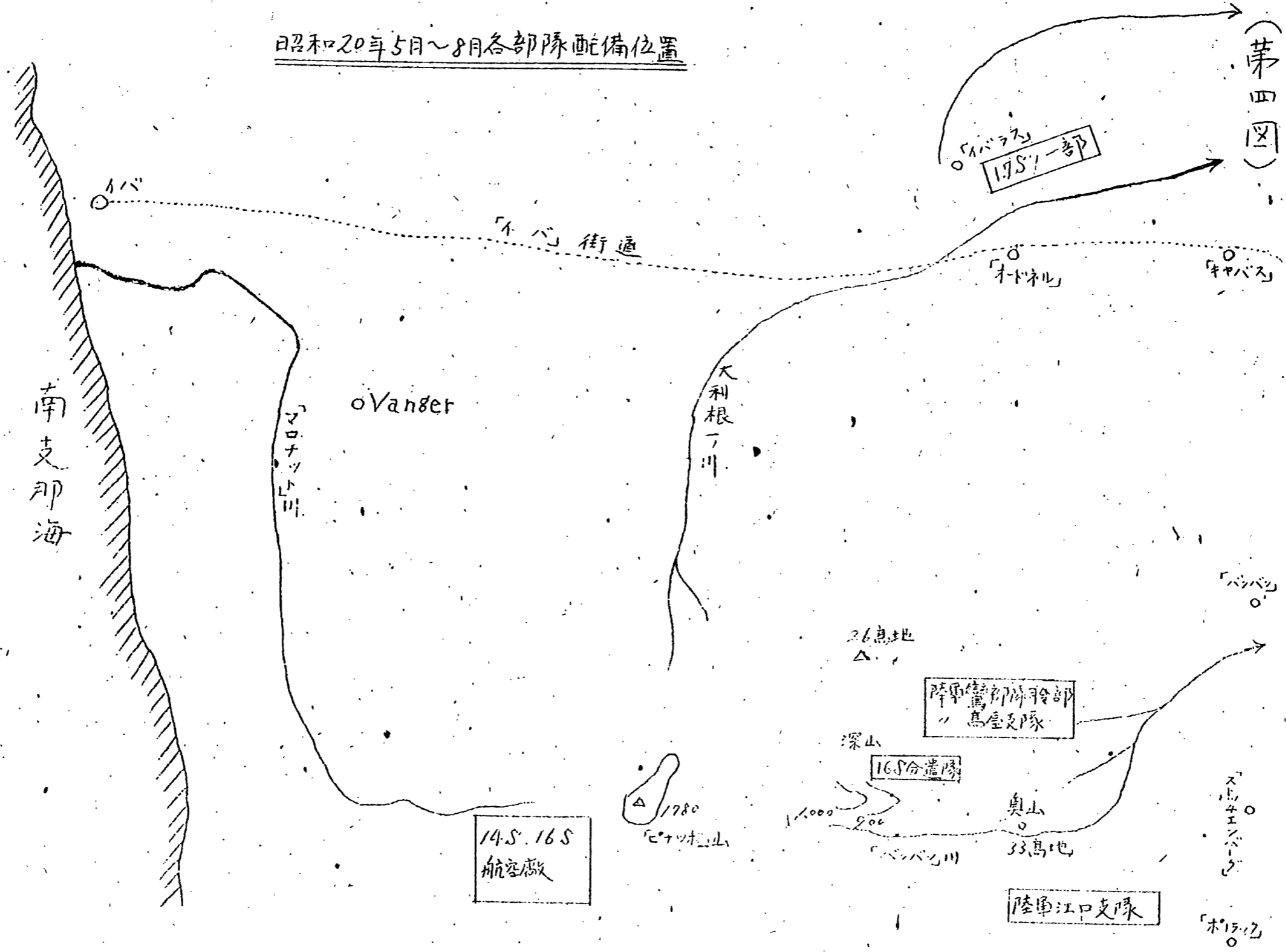
(第三四)



1936

昭和20年5月~8月各部隊配備位置

(第四図)



1937